

1. 評価結果概要表

作成日 2008年2月18日

【評価実施概要】

事業所番号	0392500021		
法人名	(株)金ヶ崎福祉フロンティア		
事業所名	介護予防施設西光荘グループホーム		
所在地	〒029-4503岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根和光544-2 (電話) 0197-43-2340		
評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成19年12月21日	評価確定日	平成20年2月18日

【情報提供票より】(平成19年12月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	7.5

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての		1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	無	その他実費負担
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(12月21日現在)

利用者人数	9 名	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名	
要介護3	4 名	要介護4	1 名	
要介護5	名	要支援2	名	
年齢	平均 80.3 歳	最低 71 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高野胃腸科内科、あべ歯科クリニック
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、金ヶ崎町の第3セクター、株式会社金ヶ崎福祉フロンティアの運営する事業所の1つで、JR金ヶ崎駅から16キロほど西方、車で15分ほどのところにあり、併設して小規模多機能型居宅介護事業所が設置され、同社の運営している「金ヶ崎温泉駒子の湯」に隣合わせている。酪農地帯に位置していることから、一般住宅は多くないものの、周囲に広がる広大な牧草地等、立地特性を活かし、散策などで四季折々の自然と触れ合い、肌を感じ、日常生活に潤いをつけながら、利用者と職員との「心と心が響きあえる時間の流れを大切にしたい」という願いの下、ゆったりと楽しく暮らしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、身体拘束の廃止に向けた研修や、介護計画の評価・見直し、家族の意見・要望の引出の取組み、健康診断の実施等の改善課題があった。前回は開設間もない中での評価であったため改善項目が多かったが、2年目においては、まだ一部課題もあるが、改善の努力が見られる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者を中心に、全職員が意見を出し合って自己評価に取り組んでいる。この評価のプロセスを通して、ケアプランや介護保険など福祉の基本的部分からケアの心構えなどまで数多く職員の気づきが得られている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、今年度3回開催されている。主に、利用者の状況、ホームの状況の報告、意見交換などがテーマとなっている。委員から、地域とのつながりを深める方策の模索など、貴重な意見が出されるなど、有意義な会議となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	グループホーム通信「きらめき」を発行し、利用者の近況をお知らせするほか、預かり金についても家族の面会の際に、出納帳(写し)と領収書を渡して報告、確認をいただいている。利用者の状態変化時等には、随時連絡を取り合っている。出された苦情等はない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域自治会には加入していないが、隣接の温泉施設に来られる顔見知りの立ち寄りのほか、ホーム主催の敬老会に地域の踊りボランティアの来訪や幼稚園・保育園の友愛訪問を得たりして、地域(住民)との交流に努めている。今後とも、より多くの地域行事に参加したいとしている。

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者と私たち職員は、人が人として”心と心”が響きあえる時間の流れを大切にしていきます。風と光・水と土・・・和光の自然と地域の皆様と共に歳を重ねていき、楽しく生活できる毎日を支援いたします。」を独自の理念として定めている。今後は、より身近な表現での理念に見直したいとしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りや月2回の職員会議において、声かけや対応のあり方など利用者との関わり方について、理念に沿って実践できているか確認しあいながら、そのケアに当たっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	酪農地帯に立地する環境にあるため近隣の住宅も少なく交流の難しさがあるが、隣接の温泉施設に来る顔見知りの方々の立ち寄りのほか、グループホーム主催の敬老会への地域の踊りボランティア、幼稚園・保育園の友愛訪問などを得て、地域との交流を図っている。今後も、より地域の行事に参加したいとしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者を中心に全職員が意見を出し合って、自己評価に取り組んでいる。また、この評価のプロセスを通じて、ケアプランのあり方やケアの心構えなど基本的な部分も含めて数多く職員の気づきが得られたとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、今年度3回開催されており、主に、利用者の状況、ホームの状況報告、意見交換がテーマとなっている。委員から、地域とのつながりを深めるための方策の模索など、貴重な意見が多く出され有意義な会議となっている。	○	近隣住宅が少ない地域における地域交流や防災協力体制のあり方等について、運営推進会議での話し合いを期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議や地域ケア連絡会等の情報交換などを通して連携を図っている。今後とも、町主催の意見交換会や学習会により多くの職員を参加させるなど、そのサービスの質の向上に努めたいとしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	グループホーム通信「きらめき」を発行し、利用者の近況をお知らせするほか、預かり金についても、家族等の面会の際に、金銭出納帳の写しや領収書を渡して確認をいただいている。利用者の状態変化時などは、随時、家族と連絡を取り合っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に苦情等をいただけるように窓口は設置しているが、出されたものはない。今後、敬老会などホームの行事参加の際に、家族が集まる機会を設けたり、アンケートを実施するなどの工夫をしたいとしている。	○	利用者・家族の意見・要望・相談・不満等はホームの改善にとって大切である。そのためには家族の随時の来訪時や、敬老会等の行事への家族参加には、必ず個々の近況を説明すると同時に家族の意向等を聞く場面づくりや努力が必要であり、今後に期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設2年目であり、利用者との馴染み関係も今後に期待されるが、体制づくりのための新任の職員受け入れに際しては、利用者が安心・安定して過ごすことができるように、全職員でカバーしあいながらその対応・ケアに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム全体の研修計画は定めていないが、研修機会の確保については、県等の実施案内の都度、積極的に派遣に努めている。なお、その外部研修への受講後の伝達研修や勉強会等内部研修については、十分ではないとしている。	○	サービスの質の確保・向上には研修は大切であり、今後とも研修機会の確保を図るとともに、研修成果を全職員が共有する方法や、テーマを定めた内部研修、ミーティング時を利用した例えば、「10分間ミニ研修」などの実施に期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会(岩手県、ブロック)の定例会や町主催の勉強会などに参加して、職員の交流、資質向上に努めている。今後は、町内のグループホーム同士の交流の機会を設けたいとしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新たな利用に際しては、利用者本人の納得を得るのは難しいが、家族等のホーム見学や宿泊体験により、ホームの雰囲気に馴染んでからの利用を基本としている。利用開始後は、利用者の不安軽減や解消して、早期に利用者の笑いが出たり楽しさを実感していただくように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀れを共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活における食事(準備、片付け等)や畑の草取り、掃除など、利用者が活動する場面の中で、その技術はもとより、酪農や農業等に従事しており、利用者のこれまでの経験や人生などで教わることも数多くあり、人生の先輩後輩、ともに学び、支えあいながら生活をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時の聞き取り等アセスメントから思いや意向を把握している。普段の生活の中で「いつもと何かが違う」と感じた利用者については、寄り添い向き合う時間を出来るだけ多く持つなどして、その思いや意向の把握に努め、それにそうように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントや本人家族の意向を踏まえて、計画作成担当者が、原案をつくり利用者家族の同意を得て計画を作成している。今後、より具体的に掘り下げた計画の作成に努めたいとしている。	○	課題として、「具体的に掘り下げた計画の作成に努めたい」「ケアマネが対応し切れていない」としているが、日常の支援課程で気づいた点が整理されており、これを基にスタッフ全員で課題や具体的な目標・対応を話し合いをしながらプラン作成することで負担感の軽減が図られることを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	概ね3ヶ月ごとに利用者の状況、評価を行うほか、随時には利用者の状態の変化時等に家族との話し合いや意見をj得て必要な見直しをしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や買い物、ドライブや実家への立ち寄りなど、一人ひとりの思いや希望に合わせての外出支援に、柔軟かつ臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望する主治医となっている。なお、主治医への通院は家族の付き添いを原則としているが、突発的受診等、家族同行が難しい場合などは、職員の通院支援も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制加算の認定を受けていない。ホーム事例として家族との連携の中で、ぎりぎりまで本人の希望通り「入浴、食事等」に対応した貴重な体験事例があったが、今後のことを踏まえ利用者・家族の意向を確認しながら対応の在り方について考えたいとしている。	○	重度化や終末期の対応方針について、スタッフの検討協議、また、家族の意向確認、かかりつけ医(訪問看護含む)の支援など、関係者の方針の統一を図ることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴介助、トイレ誘導など、特に羞恥心に配慮した言葉遣いに気をつけ注意しあっている。個人情報については、鍵のかかる場所に保管するなど、その徹底に努めている。介護のプロとして、「接遇」については、職員同士が常に注意しあい、反省しながらケアに努めたいとしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるものの、起床や食事、買い物や散歩など、無理強いほしないうえに、利用者一人ひとりの気分や状態、ペースに合わせて対応をしている。なお、居室で食事をとったりするときもあるとしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、買い物時などに利用者の食べたいものを聞きながら決めるほか、準備、配膳、食事、片付けなどは、得意な場面でそれぞれ利用者の参加を得て職員とともに和気藹々と食事(づくり)をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隔日ではあるが、利用者の希望やリズムで入浴できるよう努めてはいるが、職員体制の関係もあり、夜間入浴には十分に答えきれていないとしている。	○	当ホームの大きな特徴(売り)は「天然温泉」であり、利用者の希望があったときは、いつでも入浴利用できる様々な工夫(例えば、足湯などを含め)を期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事づくりや掃除、シーツ交換や畑の草取りなど、利用者一人ひとりの得意なこと好きなことで役割意識をもっていただくほか、ドライブや買い物などで楽しみ気晴らしをしながら、変化のある生活を実感できるように努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩はもちろん、買い物や花見等のドライブへ出かけるなど、利用者一人ひとりの思いや希望に応じて、日常的に外出するように努めている。今後は、周囲の広大な自然の中の散策コースに休憩可能な場・設備を確保したいとしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室とも鍵はかけないことを基本としている。利用者が一人で外出したときには、さりげなく見守るなどして気が済むまで外出させ、利用者の満足感が満たされるように努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回を目安に実施している。消防団等近隣地域の連絡網は作られているが、まだ地域住民を交えた訓練は実施されていない。周辺は酪農地帯であり一般住宅が少ないなど、難しい環境にあることから、運営推進会議等を通じて、置かれている環境の中での災害等への対応・対策について考えていきたいとしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や栄養の摂取量については、毎日、記録(介護支援記録)するほか、利用者の好みや状況に応じて、硬さや大きさ、とろみなどについても配慮している。栄養士等による栄養バランス等への専門的アドバイスについては今後の課題であるとしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場所には、食卓やソファ、テレビや絵画・写真、季節の花を飾るなど、工夫して心地良く生活をしている。現在、テレビなど共有スペースの音が居室に響きすぎるなどの難があることから、その解消が今後の課題であるとしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使ったり飾っていた、整理筆筒や時計、仏像や家族の写真など、思い思いに部屋に配置して住まいをしている。今後は、共有スペースのみならず、静かさを確保するなど、居室においても、のんびりと過ごせる雰囲気や環境づくりに努めたいとしている。		